

# 岡山県公報

発行  
岡山県



## 目次

担当課（室）

### 【告示】

○ 県税に係る徴収金の収納事務の委託の一部改正

○ 優良図書の推奨

○ 有害図書の指定

○ 特定施設の設置許可申請

○ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく指定区域の指定

○ 特定計量器定期検査

○ 都市計画下水道の事業計画の変更認可

### 【公告】

○ 特定非営利活動法人の定款変更の認証の申請

○ 大規模小売店舗の変更の届出の縦覧

○ 土地改良区役員の退任届

○ 公共測量の終了

○ 道路の位置の指定

税務課

男女共同参画青少年課

環境管理課

循環型社会推進課

産業企画課

都市計画課

県民生活交通課

経営支援課

耕地課

監理課

建築指導課

## 目次

担当課（室）

○ 開発許可を受けた開発行為に関する工事の完了

○ ”

### 【監査公表】

○ 平成二十九年度の行政監査の結果の公表

○ 平成二十八年度分の監査の結果に基づき講じた措置の状況の公表

○ 平成二十八年度包括外部監査の結果に基づき講じた措置の公表

監査事務局

”

”

”

◎岡山県監査公表第五号

地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百五十二条の三十八第六項の規定により、岡山県知事から平成二十八年度包括外部監査の結果に基づき措置を講じた旨の通知があったので、同項後段の規定により、当該通知に係る事項を次のとおり公表する。

平成三十年三月二十七日

岡山県監査委員	池	本	敏	朗
岡山県監査委員	青	野	高	陽
岡山県監査委員	山	本	督	憲
岡山県監査委員	佐	藤	由	美子

# 平成30年3月27日 岡山県公報 第11976号

## 平成28年度包括外部監査の結果に基づき講じた措置状況

選定した特定の事件（監査テーマ）

「観光及びこれに関連する事業に係る財務に関する事務の執行について」

監査の結果等（要約）	措置状況
<b>第2 監査結果</b>	
<b>I 観光事業（個別事業）について</b>	
<b>1 空路利用促進事業</b>	
<b>(1) 目標値との乖離分析の実施（意見）</b>	
<p>「おかやま生き活き観光アクションプラン」の目標指標は、岡山空港に運航する国際定期便の週当たり便数を25便としているが、平成28年12月現在、19便となっている。</p> <p>搭乗者数の増加等を含め一定の成果を収めているが、目標達成には至っておらず、その原因を明確化するためには、個々の施策を具体的に検証し、施策の見直しを含めた検討を行うことが望ましい。</p>	<p>国際線の便数は、利用実績にかかわらず、航空会社の路線戦略に伴って増減便を繰り返す傾向があり、指標としては課題があったため、「新晴れの国おかやま生き活きプラン」では、より県民生活への直接的な効果が反映できる岡山空港の国際線利用者数を生き活き指標に設定し、今後、利用者数の拡大に向けた施策を展開する。</p> <p>※生き活き指標 岡山空港の国際線利用者数 平成27年度：15万人⇒平成32年度：25万人)</p>
<b>(2) 観光戦略を考慮した施策の検討（意見）</b>	
<p>この事業は、岡山空港に運航する国際定期便の週当たり便数を増加させることを目標としていることから、岡山空港イン・アウトを重視した施策となっている。</p> <p>観光戦略の観点から、例えば、他の空港を利用した外国旅行者を県内に誘致する取組など、岡山空港イン・アウトにこだわらない施策についても検討されたい。</p>	<p>平成29年度から、増加するFITや広域観光需要に対応するため、国内他空港との連動を強化した「国際路線利用者開拓チャレンジ事業」を予算化し、利用者数の拡大に努める。</p> <p>※FIT（Foreign Independent Tour）とは、団体旅行やパッケージツアーを利用することなく個人で海外旅行に行くこと。</p>
<b>(3) 空路利用を促進する会の今後の体制の検討（意見）</b>	
<p>平成27年度における「空路利用を促進する会（以下「空路会」という。）」の収入は129,244千円であり、そのうち県の負担額は106,777千円となっており、平成28年度予算では、さらに大幅に増加している。</p> <p>新規路線の誘致が実施される等、空路会が多額の金銭を扱う蓋然性も高く、県において直接</p>	<p>平成28年度の空路会の収入は、298,966千円であり、そのうち県の負担額は、288,177千円である。</p> <p>県負担事業のうち、新規路線に対する運航支援（予算額152,250千円）については、運航実績によって航空会社へ支払うもので、必ずしも空路会を通</p>

<p>執行することをも視野に入れながら、さらなる透明性の確保とエアポートセールスとの両立を検討されたい。</p>	<p>じて支払う必要はないため、平成30年度から県の直接執行とする。 また、空路会で引き続き実施する事業についても透明性の確保に努めるとともに、岡山空港の拠点性を向上させるため、既存路線の維持・拡充、新規路線の就航を航空会社等へ働きかける。</p>
<p>(4) 未回収会費の徴収実施（意見）</p>	
<p>空路会は、法人会員及び個人会員により組織されており、会員から年会費5千円を徴収しているが、過去3年間は毎年80千円～90千円の未回収会費が発生している。 公平・公正の観点から、適切に徴収することが望ましい。</p>	<p>未納会員に対し、電話または直接訪問することで、空路会の趣旨を説明し、会費の納入を依頼している。</p>
<p>2 首都圏アンテナショップ事業</p>	
<p>(1) 証憑保管の徹底（指摘事項）</p>	
<p>鳥取県・岡山県共同アンテナショップ運営協議会事務局が、キャンペーン景品の購入に際し、プレミアム商品券500千円分を購入し、それを用いて景品を購入しているが、商品券を購入した領収書は保管されていたものの、商品券での景品購入の領収書が保管されていなかった。 商品券を使用した取引であっても、証憑の保管を徹底すべきである。</p>	<p>今後、同様の商品券が発行され、その商品券で商品を購入する場合は、郵券等の取扱いに準じて受け払い簿を作成し管理することとし、他の会計書類と併せて、領収書の保管を徹底する。</p>
<p>(2) 委託先選定条件の精査（意見）</p>	
<p>プロポーザル方式により業者選定を行っているが、選定審査で考慮する項目に見積金額が含まれていない委託事業があった。 いずれも委託限度額に近い金額で選定されており、経済性の観点から、見積金額も考慮することを検討することが望ましい。</p>	<p>今後、プロポーザル方式により業者を選定する場合、審査項目に見積金額の考慮を加えるなど、経済性も観点に入れた業者選定を行う。</p>
<p>(3) 入館者数の増加のための継続的取組の実施（意見）</p>	
<p>平成26年度及び平成27年度のアンテナショップの入館者数は、それぞれ平成26年度が279,157人、平成27年度が492,611人（平成26年度は、平成26年9月28日～平成27年3月31日）である。 アンテナショップは足を運んでもらうことが重要な要素であり、入館者数を増やすこと</p>	<p>ショップ内でのWi-Fi環境の整備やイート・イン・コーナーの設置、店舗入口展示の工夫など、魅力的な店舗づくりを進めているところである。 また、近隣の他県のアンテナショップとの連携や、SNSを活用した効果的なPR等を行い、多くの人に足を運</p>

<p>が、物産・観光PRの推進につながると考えられることから、それに向けたさらなる施策の検討を行うことが望ましい。</p>	<p>んでもらえるよう取り組む。</p>
<p>(4) アンテナショップ運営体制の見直し（意見）</p>	
<p>アンテナショップは、10時から22時まで営業しており、様々な調整業務が発生することから、運営に係る業務負担は大きなものと思われる。県職員には、相当の負担がかかっている状況にある。</p> <p>首都圏における認知度向上を行う等、アンテナショップが行っている業務の重要性に鑑みれば、効率的な運営方法の検討や体制の充実など、現状の運営体制の更なる見直しを検討することが望ましい。</p>	<p>職員の心身にできる限り疲労がないよう、勤務形態を「早出出勤」「遅出出勤」と分けるなど、柔軟な勤務ができるよう体制を整えていることに加え、必要に応じ、東京事務所等からの応援職員派遣や、資料作成等の業務を分担するなど、現場職員の業務負担の軽減に努めている。</p>
<p>3 観光客動態調査</p>	
<p>(1) 調査データの効果的活用（意見）</p>	
<p>平成28年に発行した「岡山県観光客動態調査報告書」の作成のための前提となるパラメーター等の調査を行うものであるが、実施された調査項目の中には、同報告書で活用されていないものが含まれていた。</p> <p>当該調査データは、観光施設10箇所調査員が実地にて調査した有用なデータであることから、観光施設ごとの詳細な分析等に活用することが望ましい。</p>	<p>パラメーター調査は、立ち寄る観光施設そのものではなく県内への観光全般に係るアンケート調査であるが、有用なデータについては活用していく。</p>
<p>4 晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーン</p>	
<p>(1) 委託業者選定方法の精緻化（意見）</p>	
<p>この事業の中で、キャンペーンガイドブックの作製について、当初20,952千円で契約されたものの、デザイン等が想定したものと異なっていたこと等から、別の業者が協力することになり、約4,000千円を追加し、変更契約が行われている。</p> <p>原因は、業者の能力を見極められなかったこと、当初の予定価格が少なかったことも考えられる。予定価格の設定は、前回のデスティネーションキャンペーンの際のガイドブック作製業者からのヒアリングによるものであり、デザイン料の見込みが甘かったとも考えられる。</p> <p>予定価格を見積書等の入手により設定する場合は、可能な限り複数業者より入手するなどして設定すべきであり、予定価格の設定方法が適切であったとはいえない状態である。また、</p>	<p>本件を踏まえ、平成29年度配布用のガイドブック作成に係る予定価格設定に際しては、参考見積の徴取先を印刷会社から写真撮影や広告宣伝などの企画制作に実績のある事業者に変更して、既に改善に取り組んだところである。</p> <p>今後とも、予定価格の慎重な設定に努めていく。</p>

<p>結果として、デザインの修正のために、選定した委託業者との再三の打ち合わせや、最終的にはデザイン面での協力業者への依頼など、金額コストが増加しただけでなく、事務コストも相当量増加し、非効率な業務執行となった。</p> <p>今後の予定価格の設定においては、予定価格の重要性を再認識し、慎重に設定されたい。</p>	
<p>(2) アンケートの入手及び効果的な活用（意見）</p>	
<p>この事業の中でのレンタカーの割引企画では、利用者からのアンケートは入手していなかったが、県の観光施策において役立つ情報は創意工夫により積極的に取り入れるようにすることが望ましい。</p>	<p>アンケートは、観光客のニーズ等を把握する有効な手段であるため、今後は積極的に取り入れていく。</p>
<p>5 岡山後楽園賑わい創出事業</p>	
<p>(1) 幻想庭園の魅力向上（磨き上げ）の継続的实施（意見）</p>	
<p>幻想庭園は以下のようなことも検討し、さらに魅力を高めることが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幻想庭園の知名度をもっと広めていくこと。</li> <li>・ 見どころを伝えるナイトボランティアが土日の休日しか実施しておらず、平日に訪れる観光客に魅力を伝える機会が少ない。</li> <li>・ 茶店等の蛍光灯の光が、現実的であり、幻想庭園の雰囲気損なっている。</li> <li>・ 茶店等での飲食について、魅力を向上できる余地がある。</li> <li>・ 駐車場の出口渋滞について改善すべきである。</li> </ul>	<p>県内では、恒例のイベントとして定着してきていると考えているが、今後は、観光キャンペーンをより積極的に活用していくほか、旅行業界やメディアに対する情報提供をできるだけ早めに行うなど、一層のPRに努めたい。</p> <p>2017年夏の幻想庭園では、平日も実施することとした。今後、参加状況も見ながら、可能な範囲で平日の実施日数を増やしていくことを検討する。</p> <p>一定程度の投資が必要であり、民間業者の経営に関わる事項でもあるため、早急な対応は難しい面がある。しかし、メニューの充実等を行う動きも出てきており、今後とも、茶店等と意見交換を行う中で、魅力向上に向けた取組の検討を続けたい。</p> <p>従来から、混雑時には警備員の増員等で対応を図ってきたが、今後は、事前精算機の増設や案内板の改善を行うなどの対応を行う。</p>

<p>(2) 幻想庭園の収益性向上（意見）</p>	
<p>幻想庭園は、入園者が最大値の入園料を支払ったとして、入園料で経費が賄えていない状態である。いわゆる特別展のようなものであり、通常の入園料に加算するといった議論が行われることは有益であると考えます。</p> <p>また、幻想庭園の魅力を損なうことなく、現状の支出を削減できないかについて、絶えず検討していくことが望ましい。</p>	<p>幻想庭園実施中の入園に特別料金を加算することは、県民の負担を増やすこととなり、県民へのサービス低下にもつながることから、慎重な議論が必要となってくる。しかし、入園者の負担のあり方を検討することは有益であることから、他の自治体での同様のライトアップイベントの実施状況も参考にしながら、研究を行っていききたい。</p> <p>また、魅力を損なわない範囲での経費の削減についても、実施内容を点検し、見直しを行っていく中で併せて検討していく。</p>
<p>6 爽快！岡山満喫サイクリングロード事業（推奨ルート選定等）</p>	
<p>(1) レンタサイクルの利便性向上（意見）</p>	
<p>おかやま旅ネットにおいて、選定されたサイクリング推奨ルート上にあるレンタサイクルを把握することは容易ではない。また、レンタサイクルは、ほとんどのルートで貸出地に返却する必要がある。</p> <p>県外観光客や家族連れの利便性を高め、サイクリング推奨ルートの利用を促進するためにもレンタサイクルの利便性を高め、観光客誘客に繋げていくことが望ましい。</p>	<p>返却場所についての調整は、直ちには困難であるが、今後作成するルートマップにレンタサイクル店を記載して、利用者の利便性を高め、観光客誘客に繋げていく予定である。</p>
<p>7 岡山空港インバウンド受入拡大事業</p>	
<p>(1) アンケートの回収徹底（意見）</p>	
<p>アンケート用紙を配付・回収を行う宿泊施設側の外国語対応不足等により、アンケートの回収率が11.8%という状況であることから、アンケート実施主体について再検討するなど、創意工夫のうえ、回収率を高めることが望まれる。</p>	<p>本事業は、国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地域消費喚起・生活支援型）で実施したもので、平成28年1月に完了し、今後実施する予定はないが、意見のとおり、回収率が低かったため、今後、同様の事業を実施する場合は、アンケート実施主体などを検討し、回収率を高める工夫をしていきたい。</p>

(2) 郊外宿泊施設への誘客検討（意見）

参加を表明した県内宿泊施設のうち、実際に制度を利用した外国人旅行者が宿泊し、助成金の申請を行った宿泊施設は、岡山市内に集中している。

同市内の宿泊施設と比較して、行楽シーズンにおいても比較的稼働率に余力のある郊外の宿泊施設への誘客を主導した方が、地域活性化に繋がることから、郊外の宿泊施設の場合には助成額を高くするか、岡山空港から宿泊施設までの貸切バス費用を助成する等の工夫を行うことが望ましい。

当時、岡山空港の国際線は、ソウル線、上海線の2路線で、両便とも遅い時間帯に到着するため、宿泊は空港に近い岡山市内に集中した。

平成29年3月から、山陰、瀬戸内、四国10県が、高速道路会社、レンタカー協会等と連携し、当該地域における外国人個人旅行者のドライブ旅行を推進している。

平成28年に就航した香港線、台北線の利用者は、レンタカーを利用する個人旅行者が多く、郊外の宿泊施設を利用しやすいことから、海外の旅行会社に対し、同キャンペーンの趣旨を説明し、郊外の宿泊施設の利用を促していきたい。

8 ふるさと旅行券「晴れらんまん おかやまの旅」発行事業

(1) 事業経費積算の精緻化（意見）

委託料の積算にあたり、発券（額面）総額の10%をコンビニエンスストアに支払う決済手数料として積算していたが、実際は販売額（券面額の50%）の10%として精算されており、正しく積算すれば、より多くの助成金に充てることができたと考えられる。

他県を参考に当該率を採用したものであるが、さらにコンビニエンスストア等に対し、見積書の提示を求めることで、より適正な積算根拠を入手すべきであり、今後は、経費の積算を慎重に行うことが望ましい。

事業費の経費積算に際しては、これまで慎重に行ってきたところであるが、今後、コンビニエンスストアを活用した事業を実施する際には、御意見の内容も踏まえた積算方法を検討したい。

(2) 発行コスト削減方法の検討（意見）

ふるさと旅行券のコンビニシステムによる発券コストは大きく、削減によりふるさと旅行券をより多く発行することができる。

一部を首都圏アンテナショップで直接販売するなど、発券コストの削減への取組を積極的に行うことを検討されたい。

今後、ふるさと旅行券を発行する場合には、購入者の利便性を考慮しながらも発券コストの削減を図り、旅行券がより多く発行できるよう努めていく。



<b>(3) 県外旅行者誘致方法の検討（意見）</b>	
<p>ふるさと旅行券の販売において、レンタカー割引券とのセット販売や首都圏アンテナショップでの直接販売など、県外からの旅行者を誘致できるような取組について積極的に検討されたい。</p>	<p>今後、ふるさと旅行券を発行する場合には、県外からの旅行者をより多く誘致できるよう効果的な取組を検討する。</p>
<b>(4) アンケートの効果的活用（意見）</b>	
<p>ふるさと旅行券のアンケート結果の分析等がまだ行われていないが、分析結果から、旅行者ニーズを把握するなど、今後の観光施策に活用することが望ましい。</p>	<p>旅行者のニーズ把握は重要であることから、アンケート結果等を踏まえ、平成29年度当初予算へ体験型観光の推進等を盛り込むなど観光施策に活用した。</p>
<b>9 公益社団法人 岡山県観光連盟</b>	
<b>(1) 着地型観光推進事業（旅行商品化の促進）</b>	
<b>ア 助成金額の算定誤り（指摘事項）</b>	
<p>この事業では、「助成金計算書」に基づき助成金額を決定しているが、個人型の計算表を適用すべきところ、誤って団体型の計算表を適用して算定したことから、当初予定の助成金額と異なる金額で助成される結果となっている。</p> <p>あらかじめ実施手順等を定め、適切に実施されるように、事業実施体制を改善する必要がある。</p>	<p>この事業は、平成27年度から実施しているもので、指摘を受けたのは、開始当初の第1期分についてであり、集客目標による計算表が、個人型と団体型が酷似していたため、その適用を誤ったものである。</p> <p>また、申請のあった個人型（23件）と団体型（3件）の商品26件を一覧表に整理し、一括して助成予定額を決定したため、チェックが不十分となったものである。</p> <p>現在は、集客目標による部分を含め、助成要件を整理したうえで、申請1件ごとに助成金計算書を添付しチェックしている。</p>
<b>イ 実績報告の入手徹底（意見）</b>	
<p>助成要項上、助成した旅行商品についての集客実績報告を提出することになっているが、すべての助成先から集客実績報告を入手している訳ではない。</p> <p>効果測定の観点から、すべての助成先から入手し、その効果分析を十分に行うことを検討されたい。</p>	<p>現在は、商品の募集期間終了後報告のない場合は再度依頼するなど、すべての助成先から実績を入手することにより、造成された商品の成果を確認している。</p>

ウ 助成条件の精査（意見）

助成するに当たっては、実際の集客実績は考慮されていないが、有効性の観点からは、集客実績を考慮することも検討されたい。

本事業はパンフレットの集客効果と、店頭掲出など旅行会社による宣伝効果を期待して、パンフレット等の作成費を助成しているものであり、定番の商品に加え、新たな観光地等の掲載を期待している。集客実績を考慮すると、実績の裏付けのない新規の商品造成が難しくなる恐れがあると同時に、設定期間の長い（6ヶ月）商品もあることから、助成要件に集客実績を考慮するのは困難と考えるが、引き続き、その方策については研究したい。

なお、集客目標に比べ、実績が著しく低かった場合は、その旨を伝え、目標は実態が反映されるものになるよう依頼している。

(2) 着地型観光推進事業（発掘・磨き上げとプラットフォームシステムの活用）

ア 見積書入手方法の検討（意見）

委託先とは、平成26年度からの3年間の継続を前提とした随意契約を行っているが、委託金額について、平成27年度の見積書を入手していなかった。

3年間継続を前提とするならば、当初から3年分の見積書を入手することが望ましい。

業務委託契約は1年ごとに行っており、見積書も毎年度徴すべきであったが、平成27年度の委託金額については、協議を通して両方で合意していたため、契約にあたって見積書の徴取を失念したものである。

平成28年度については見積書を徴取している。

(3) フィルムコミッション活動連携事業

ア 事業成果の効果的活用（意見）

ロケーション撮影の誘致に取り組むこの事業は、ロケ地情報の提供、研修会の開催、誘致活動等を行っているが、他の事業やイベント等において、本事業と連動するロケーション地、ロケーション実績などを十分に活用していると言える状況にはなく、有効性の観点からは、他の事業やイベントとの連携について検討することが望ましい。

ロケが行われた地元が作成するロケ地マップの作成や、ロケ風景・俳優が着用した衣装の展示イベント等PRに加え、連盟が運営するホームページ「おかやま旅ネット」に映画の名場面となったロケ地と観光地などを組み合わせた特集ページを作成し、ロケ地への誘客を図っているところであり、今後とも連携を強化していく。

＜昨年度作成した特集ページ＞

- ・「君と百回目の恋」
- ・「ひるね姫」

(4) 戦略的情報発信事業（外国語ホームページの構築）	
ア 委託先選定過程の保存徹底（意見）	
<p>委託先選定にあたって、企画提案コンペの採点表の様式が決定されていたが、提案された内容の優劣が明らかであったため、この採点表を用いた採点を行うことなく、採点者間の合議により委託業者の決定が行われている。</p> <p>業者選定に係る透明性の確保及び事後検証を可能とするため、選定過程等を記録して残すことが望ましい。</p>	<p>業者選定における透明性の確保のため、選考手順の記録は必要と考え、今後は留意して取り組む。</p>
II 観光事業（全体）について	
1 二次交通	
(1) 二次交通整備方法の検討（意見）	
<p>岡山県はその地理的特性から、新幹線・特急列車や岡山空港の国際線の本数も多く、一次交通は比較的整備されているが、主要な観光地は市街地から遠くに点在し、最寄駅からも遠く、二次交通において課題がある。</p> <p>二次交通手段確保のための二次交通事業者に対する運営費の補助や、二次交通を利用する観光客向けの利用代金の補助など、二次交通手段の確保に関する取組を強化することが望ましい。</p>	<p>本県の観光振興を図るうえで、二次交通の充実が課題の一つであると認識しており、二次交通手段の確保に関する取組を強化したい。</p>
(2) レンタカー利用を前提とした観光PRの実施（意見）	
<p>岡山県はその地理的特性から、鉄道・バスを前提とするよりも、レンタカーを前提とした二次交通の整備を行う方が、観光客の利便性向上に繋がると考える。</p> <p>destinationキャンペーン期間中だけでなく、平常期間におけるレンタカー補助についても検討を行うことが望ましい。</p> <p>また、レンタカー利用に関する情報提供の面でも、乗り捨て返却が可能な県内のレンタカー営業所を観光マップに織り込む等、利用者の利便性を向上させる方法を検討されたい。</p>	<p>二次交通の充実に向けて、レンタカー利用の促進を図ることは効果的、かつ効率的であると考えており、今後、レンタカー事業者と、より一層の連携強化を図り、観光客の利便性向上に努めたい。</p>

(3) 外国人旅行者への対応方法の検討（意見）

外国人旅行者にとって障害となるのが、言葉の壁であり、岡山県での観光で利便性の高いレンタカーにおける外国語対応が課題である。  
 外国語の案内標識の設置、一方通行・駐車禁止区間などの県固有の道路事情を記載した外国語の運転案内の作成、事故・違反が起きた際の電話サポート窓口の設置等の整備を行うことが望ましい。

中国語（繁体字）のドライブマップの作成や香港メディア等へのPRを実施することにより、レンタカー利用を促進し、利便性を向上させる事業を鳥取県と連携して実施していく。

2 広域連携

(1) 効果測定方法の検討（意見）

広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」の形成に係る目標として、瀬戸内7県の外国人延べ宿泊者数600万人を掲げているが、県内の外国人延べ宿泊者数の増加数等、単県としての目標値設定及び効果測定の方法が構築されていない。  
 支出の効果を把握するためにも、目標値を設定し、実績値との比較による効果測定を行うことが必要であると考えます。  
 観光客動態調査として、「県以外の立ち寄り都道府県」、「来訪した「きっかけ」」などについて聞き取り調査を行っており、今後は当該調査を利用するなどして、有効な成果把握の方法を構築することが望ましい。  
 また、単県による成果把握のほかに、広域観光連携を行う過程において、連携した成果把握の方法も検討されたい。

広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」では、国が三大都市圏以外の地方での目標を7000万人泊としていることから各県の目標値を設定し、その積み上げにより、目標設定をしている。  
 一方、岡山県では、「新晴れの国おかやま生き生きプラン」で平成32年度の旅行者宿泊者数を30万人にすることを目標にし、その達成度により県の事業について検証することとしている。  
 また、広域観光連携の成果把握については、せとうち観光推進機構では、来訪意向度、来訪者満足度、再訪意向度などを定量目標として掲げており、独自調査を実施することとしているので、これらも参考にしながら方法を研究したい。

(2) 観光資源の魅力向上（磨き上げ）の継続的実施（意見）

広域観光周遊ルートの形成での県内観光地としてモデルコースに含まれているのは、以前より知名度のある観光地がほとんどである。県内の観光地には、モデルコースから著しく外れない範囲で他にもコンセプトに沿ったものが複数存在するため、コンセプトに沿った形で県内観光地をさらに磨き上げるよう、所管する市町村に対して働きかけを行うこと等を検討されたい。

観光客の多様化するニーズに対応するためには、観光素材の開発や体験型観光の発掘などの推進にあたり、地域の歴史、文化に精通している市町村の役割が重要であり、今後ともより一層連携を強化していく。

<p><b>3 市町村連携</b></p>	
<p>(1) 市町村観光課担当課長会議の積極的な活用（意見）</p>	
<p>市町村観光担当課長会議は、単に県からの説明の場となっている。 市町村観光課担当課長会議を、県及び市町村が活発に連携する場として積極的に活用されることが望まれる。</p>	<p>県の観光振興を図るうえで、市町村や観光事業者との連携は重要であり、今後とも市町村担当課長会議の場を積極的に活用していく。</p>
<p><b>4 教育旅行</b></p>	
<p>(1) プロモーション方法の検討（意見）</p>	
<p>来県実績のない学校に的を絞り個別訪問によるプロモーションを実施しているが、中国地方・瀬戸内等の広域で連携して説明会を開催することにより、単県で実施するよりも少ない予算でより多くの関係者に向けたプロモーションを実施出来ることが期待できると考えられる。 単県による個別訪問によるプロモーションのみならず、広域連携型説明会への参加や広域での教育旅行プランの提案なども検討することが望ましい。</p>	<p>これまでの、学校や旅行会社への個別訪問や広域の教育旅行プラン提案に加えて、今年度から、旅行会社が主催する教育旅行等商談会参加や担当教諭等の視察招致活動など、取組を強化しているところであり、広域連携型説明会の開催についても検討していきたい。</p>
<p><b>5 岡山後楽園</b></p>	
<p>(1) 滞在時間伸長に繋がる誘客企画の継続的な実施（意見）</p>	
<p>入園者アンケートによると、岡山後楽園の滞在時間で最も多い回答は1時間30分未満と短いことが問題点として挙げられる。 岡山市内において滞在時間を延ばすためには、後楽園周辺の整備や周辺施設との連携強化により周遊の推進を図ることはもちろんであるが、まずは、岡山後楽園の魅力を高め単独での滞在時間を延ばすことが有用であり、そのために、食事処や土産物店の魅力向上、体験型・交流型の観光企画の開発などを検討することが望ましい。</p>	<p>平成29年度から、従来から実施していた「旬彩市場」や「和のおもてなし事業」などに加えて、「感動体験プログラム」の開発・実施を行っている。園内の建物を無料開放し、建物からの眺めを楽しんでもらいながら、簡単な和文化にも触れていただくといった内容の取組に加えて、子どもや外国人向けのメニューも開発し、多くの方々に、長時間楽しみながら、後楽園への理解を深めてもらえるような取組を進めていく。</p>